

# 雪崩事故を防ぐための講習会報告

労山主催第 16 回関東ブロック「雪崩事故を防ぐための講習会」に参加しました。

今年は受講生 3 名と異例の少なさでしたが、その分、講師とマンツーマンで息の抜けない濃い内容の大変有益な実習を繰り返し実践でき、ビーコンの使い方、弱層テスト方法、雪崩と弱層、気象との関連の概要を理解習得できました。



- 【山城】** 南アルプス  
**【日時と天候】** 2009 年 1 月 31 日：雨のち曇り、  
2 月 1 日：曇りのち晴れ  
**【メンバー】** 住田(記)、会員外 2 名。講師：陶山、  
若山、川嶋、愛原、西村

## 【行程】

- 1 日目： 富士見駅～(ゴンドラリフト)～マナスル山荘～山荘周辺  
2 日目： マナスル山荘～入笠山～山荘周辺～(ゴンドラリフト)～富士見駅

## 【内容】

基礎知識と実技手順等は講習会テキストに記載されており(事前に半日の机上講習会を受講)、ここでは感想と補足ポイント事項を紹介します。

### 1 日目 PM：

#### 1.ビーコン装着チェック(出発前)

- ・リーダーのビーコンのみを送信モード、他の人は受信モードにして、全員のビーコンがリーダーのビーコンをサーチできることを確認。
- ・リーダーのビーコンのみを受信モード、他の人は送信モードにし、リーダーに向かって 5m 間隔で歩き、リーダーのビーコンで全員の受信を確認。

#### 2.雪庇・雪面観察(右写真)

- ・断面観察 雪庇、黄砂で変色した雪層、ざらめ雪の弱層、指が入らないクラスト
- ・雪温測定 気温 $-0.8^{\circ}\text{C}$ 、雪面 $-0.2^{\circ}\text{C}$ 、1m $-0.9^{\circ}\text{C}$ 、地面 $0.2^{\circ}\text{C}$

#### 3.弱層テスト説明と実習

- ・円柱テスト(下)
- ・シャベルコンプレッション(右下)



#### 4.雪崩ビーコン操作（アナログ・デジタル）

- ・アワグは最初難しかったです。サーチ音の微妙な強弱の聞き分けで方向を特定するのと、深く埋没していた場合、2m以内接近後に雪面を一旦数十cm程掘り、その深いところで再度クロス法を繰り返すのがコツと思いました。
- ・クロス方ではマキグをしっかりと引き、山側に向いて足を広げて雪面をサチ。

#### 5.プローブ操作（ピンポイント）

- ・人、ザック、地面等の当たりの違いの感触を感じる。

### 1 日目夜：

#### 1.映像 15 分の生還他、山のライブ映像（陶山,川嶋講師）

#### 2.雪崩ビーコンの原理、雪崩事故時の気象解析（若山講師）

直前の多量な降雪が事故との相関が高い。事前にアワグで周辺 3 点の雨量チェック。

#### 3.雪崩体験報告（愛原講師）

巻き込まれたら必死で泳ぎ、雪面より頭を出す。

だめで止まりそうな時、口周りを手で空間を確保。片手は伸ばし雪面から出ればラッキー。

#### 4.交流会 川嶋講師の K2 経験他

### 2 日目 AM：

#### 1.表面霜の観察

- ・夜明け前、ルーペで観察。キラキラ光ってきれい。

#### 2.入笠山山頂へ

- ・雪崩危険箇所の見極め実習
- ・一人ずつ順にトラバース切り抜け実習

#### 3.雪崩捜索犬デモ（若山講師、右写真）

- ・ゴールデン 6 歳チャンス君、埋没者発見おみごと！



#### 4.捜索訓練（ビーコン複数捜索、ビーコン無し）

- ・下山途中、先回りしていた講師が倒れたまま核心の演技「助けて～、他の二人があちらの雪崩に巻き込まれた！ 一人はビーコンを着けていたが、もう一人は着けていなかった」から、突如実習開始。
- ・まず生き残り者に状態の確認はしたが、安全な場所への移動、二次雪崩の見張りの依頼が抜けた。受講生 3 名で分担して結果的には二人分見つけ出せたが、分担の明確な確認(リガー選出)が不十分で反省点であった。

#### 5.埋没体験（右写真）

- ・数十 cm の深さに、うつ伏せで埋まる。
- ・真っ暗、動けず徐々に腹部も圧迫され、空気が悪くなり、数分で苦し～い。

### 2 日目 PM：

#### 弱層テスト（復習・行動判断）

- ・前日からの気温差で生じた、しもざらめ雪の弱層を観察

講師の皆様、お世話になりありがとうございました。

